

令和4年度全国学力・学習状況調査 気仙沼市の結果等について

令和4年11月2日 気仙沼市教育委員会

学びの一番の成果はもっと学びたくなること

「どうして勉強しないといけないの？」
 「そんなこと考えなくていいから」と否定したり、「とにかく勉強すること」と逃げたりしてしまいます。
 学んで分かるのはもっと学ぶことがあるということ。そうであれば、学ぶことの一番の成果は
 「学び続ける意欲をもてること」。

保護者の皆様に今年度実施しました全国学力・学習状況調査の結果をお知らせいたします。
 調査結果とともに浮かび上がる学習・生活面等の課題について、学校と保護者が情報を共有し、
 一体となって改善・充実に取り組みたいと考えております。

保護者の皆様の深い御理解と温かな御協力をお願いいたします。



1 調査の概要

- (1) 調査実施日 令和4年4月19日(火)
- (2) 調査対象 小学校第6学年全児童(13校:358人)、中学校第3学年全生徒(10校:396人)
*小学校1校は新型コロナウイルス感染症の影響で別日に実施したため参考値扱い
- (3) 調査内容 教科に関する調査(国語, 算数・数学, 理科), 児童生徒質問紙調査(生活や学習意欲に関する内容)

2 調査結果の概要

- (1) 教科に関する調査結果(平均正答率の推移) *宮城県は仙台市を除く

対象	教科	年度	平均正答率 (%)				全国との かい離 (ポイント)	対象	教科	年度	平均正答率 (%)				全国との かい離 (ポイント)
			気仙沼市	宮城県	仙台市	全国					気仙沼市	宮城県	仙台市	全国	
小学校	国語	R4	62	62	65	66	-4	中学校	国語	R4	70	68	71	69	1
		R3	61	62	65	65	-4			R3	66	63	68	65	1
		H31	62	61	63	64	-2			H31	72	71	77	73	-1
	算数	R4	56	58	62	63	-7		数学	R4	43	45	53	51	-8
		R3	65	66	70	70	-5			R3	55	52	60	57	-2
		H31	63	64	67	67	-4			H31	58	55	63	60	-2
	理科	R4	59	60	63	63	-4		理科	R4	48	47	53	49	-1
		H30	60	57		60	0			H30	66	64		66	0

*令和2年度は新型コロナウイルス感染症のため未実施。 *理科は平成24年度から3年に1度程度実施。

- (2) 児童生徒質問紙調査(カテゴリーごとの成果と課題) ◇…比較的できている点 ◆…課題のある点

- ① 非認知能力(自己肯定感や挑戦心, 規範意識など)
 - ◇ 人の役に立ちたい, 地域や社会を良くしたいという思いや意欲をもっている児童生徒が多くいます。
 - ◆ 自己肯定感が昨年度よりも上がっていますが, 小中ともに依然として全国より低い値です。
- ② 対話・探究活動の充実度(学級やグループでの話し合いや自らの課題を調べて表現する活動など)
 - ◇ 総合的な学習の時間での探究活動の充実度が小中ともに高く, ESDに取り組んできた成果です。
 - ◆ 小6は, 学級での話し合いを生かし, 自分のこととして捉え, 取り組むことに課題がみられます。
- ③ 授業充実度(国語, 算数・数学に対する興味や理解度など)
 - ◇ 多くの児童生徒は, 授業を好意的に受け止め, 特に中学校3年生の国語の充実度が高くなっています。
 - ◆ 算数・数学が生活や将来に役立つとする実感は高くありません。
- ④ その他(学力との相関が強い事項)
 - ◇ 家庭での生活リズムが概ね整っています。「毎日朝食を食べている」と回答した児童生徒と「全く食べていない」と回答した児童生徒との平均正答率には大きな開きがありました。
 - ◇ 「(本を)全く読まない」と回答した児童生徒は少なく, 読書習慣が身に付いています。
 - ◆ 平日1日当たりゲームを「3時間以上している」小6が33.8%, 中3が24.1%でした。スマートフォンの長時間の利用は学力だけではなく, 発達や睡眠習慣への影響があるといわれています。
 - ◆ 平日, 学校以外での学習時間(家庭学習や塾等)が1時間未満の小6が32.9%, 中3は24.5%でした。学校以外での学習時間が1時間以上の児童生徒と1時間未満の児童生徒の平均正答率を比較したところ, 1時間未満の児童生徒がすべての教科の平均正答率で下回りました。

3 「確かな学力」の育成に向けた本市の取組

(1) 学習状況改善事業（県学力向上マネジメント支援事業）等の取組

- ① 学校と教育委員会の担当で学力向上に向けた具体的な方策を検討、推進します。その方策の有効性を検証するために年2回（4月、12月）の標準学力調査を全小中学校で行います。結果から、個々の伸びを確認するとともに、つまずきや課題は年度末までに学び直しで補充します。
- ② 本市が推進してきたE S Dを含む対話・探究活動の充実が非認知能力を押し上げていることから、引き続き地域の方や地元企業、大学等との連携を図り、より充実した活動を目指します。また、対話・探究活動を各教科の授業で積極的に取り入れ、言語活動を重視した授業づくりを推進し、非認知能力と学力の一体的な向上を図ります。

(2) 教科指導力の向上と校内研修の工夫



- ① 各学校で、算数・数学、英語の授業改善を重点目標とした研修を行います。さらに、近隣の小中学校合同の教員研修を行い、授業づくりや指導方法の研究や情報交換を行います。
- ② 授業や家庭学習でのICTの活用をさらに進めます。
- ③ 児童生徒の高い意欲を確かな学力に結び付けるために、身に付けさせたい資質・能力を教師自身が十分に意識し、指導を工夫するなど一層の授業内容の充実に努めます。

(3) 算数・数学の積み上げ

- ① 児童生徒の疑問や意見を丁寧に取り上げるとともに、学習内容が自分の将来や生活につながっていることを実感できるような工夫を行います。
- ② 児童生徒が問題の意図や情報を図表などを用いて思考する時間を十分に確保し、誤答したときには、つまずきの原因を追求し、年度内の学び直しや学年を超えた振り返りを充実させます。
- ③ 基礎基本の定着のために、学校や家庭でタブレットドリルの活用を促進し、学習履歴（スタディ・ログ）を基にして、一人一人の状況に合った指導を行います。
- ④ 本調査問題や高校の入試過去問題等の演習を授業の中に取り入れ、習得した基礎基本を活用する活動に計画的に取り組みます。

(4) 一人一人への対応と子どもの声や親の思いを大事にする学校、学級づくり

- ① 教職員が児童生徒と向き合い、児童生徒に寄り添いながら励ますなど、時機を捉えた積極的な評価や関わりを大切にします。
- ② 自律的な学級を醸成するために児童生徒の考えや思いを生かした学級づくりを進めます。
- ③ 保護者等と連携して、個別の対応を必要とする児童生徒にとってより良い環境を構築します。

4 望ましい習慣づくりに向けての合い言葉「はまらいんや」

㊦ 早寝 早起き 朝ごはん…健やかな成長の土台づくり

朝ごはんを食べる子ほど学力も体力も高い傾向があります。
規則正しい生活習慣の確立を一層目指しましょう。

㊧ マイファミリールール…話し合ってみませんか我が家のルール

家族でルールを決めることは子どもたちを守ること、自立心を養うことにもつながります。ルールの見直しをしながら、ゲームを適切に利用できる力（メディアコントロール）等を身に付けさせましょう。

㊨ ライバルは昨日の自分…頑張るお子さんに励ましの一言葉を

学校では、タブレットドリルの活用や授業と連動した家庭学習などの工夫をし、家庭学習の質の向上を目指します。取り組んでいる様子を見守り、時には励ましてください。

㊩ 印象に残る一冊…時には親子で肩を並べて読書

読書は読解力や表現力、感性などを高めます。本や新聞を読む機会や時間を確保しましょう。

(以上のことを)

㊪ やってみよう そして やり抜こう…無理は続きません 習慣になるまで

感染症予防のために制限を強いられた生活が続いています。正しい知識を身に付けさせ、できるだけ不安や悩みを解消させましょう。また、適度な運動は骨や筋肉を強化するだけでなく、心の安定にも効果があります。お子さんと一緒に体を動かしてみましょう。

